

~特別号~

<4.30.5.15>

おやのちから
親野智可等
(教育評論家)

心と体の土台をし、かり育てる!

(頭のいい子に育てほし、運動が得意な子に育てほし。
それなら、幼児期から学童期にかけて、そのための土台を
きちんと育ておかなければいけません。)



これらを育ておくことが大事!

「勉強も運動もできる子にしたい」という思いから、幼児期や学童期の子に早期教育プログラムをやらせたり、運動教室に通わせたりする親は多いです。でも、美はもっと本質的に大切なことがあり、それはなんと「遊び」です。この時期に自分がやりたい遊びを毎日思う存分やっている子のほうが、先々の勉強や運動で後伸びするのです。これは発達心理学の美証的な研究によって明らかになっています。

たとえば、内田伸子・お茶の水女子大学名誉教授らの調査によりますと、偏差値68以上の難関大学合格者の親の35.8%が、入学前に「思いきり遊ばせる」とを重視していました。(後略)

土台がしっかり育っていないと……

自主性がなく、自ら行動できない子に

遊びの中で「楽しいわくわくする」体験をたくさんしている子は、自己肯定感と意欲が育ち、勉強でも運動でも主体的に動けるようになります。

- 幼児期に身につけさせたいこと
- ①「自己肯定感」
 - ②「自己実現力」
 - ③「他者信頼感」

③「他者信頼感」

学校でも職場でも、他者との関係を築くことが出来る人は幸せです。そういう人は、勉強や運動、仕事でも、楽しく取り組んで自然に成果が上がります。

周りとのよい人間関係をつくる上でとても大切になるのが、他者を信頼する気持ちです。(中略)

幼児期の無理な早期教育や一斉運動でできないときに叱られることが多くなり、過度な競争状態の中で友達と関わる経験をたくさんしてしまうと、他者信頼感が薄れて他者不信感が育ってしまいます。その反対に、楽しい遊びの中で、心が解放された状態で友達とたくさん関わる経験をしている子は、自然に他者信頼感が育つのです。 <のびのび子育て 勉強も運動もできる子になる!>